

わたしはだれでしょう？

2月のある日、小学校の道徳の授業参観に行ってきました。今回のコラムのタイトルは授業のテーマとして、初めに先生が子どもたちに問いかけた言葉です。クラスメイト全員の好きなものを3つずつ先生が言っていき、それがだれかを当てるクイズから授業は始まりました。

一人一人好きなものが違うことも含めた大きな意味の言葉として「多様性」という言葉があります。多様性とは、さまざまな社会、民族的背景、異なる性別、性的指向など、それぞれの人々が持つ多種多様なバックグラウンドのことです。多様性を英語にするとダイバーシティ (Diversity) になりますが、意味はさらに踏み込んで「個人の違いを認め合い、尊重し合うこと」も指しているそうです。

インターネットの発達等により、自由に意見を世界に向けて発信することができる世の中になり、多様性への理解は進んできているように思います。授業でも子どもたちがバックグラウンドを構成する様々な要素について発表していました。性別や出身地、肌の色や身長・体重といった見た目、好きな教科や好きな食べ物などなど・・・たくさんの意見が出ていました。たくさんの要素から一人一人が確立されていることから、改めて一人の人間が持っているバックグラウンドは大変複雑であるということを感じました。

授業の終盤では、多様性によるトラブルはどうして起こるのか、について子どもたちが考えていました。「相手を知らないから」、「一方的な決めつけや思い込み」、「相手を認められない」などの意見が出ていました。

多様性によるトラブルの解決策は、まずは相手を知り、そして理解することだと思います。講演会や研修、テレビや本などを通して多様性について学びませんか？

旅人

